

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（泊3号炉）  
（590）

2. 日時：令和5年11月27日 14時00分～14時05分

3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）

4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

天野安全管理調査官、宮本上席安全審査官※、秋本主任安全審査官、

熊谷主任安全審査官、藤原主任安全審査官、小野安全審査官

北海道電力株式会社：

原子力事業統括部 部長（審査・運営管理担当）、他14名

原子力事業統括部 部長（安全技術担当）※、他4名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

（1）泊発電所3号炉 残されている審査上の論点とその作業方針および作業スケジュールについて

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	規制庁アキモトですそれでは泊発電所3号炉のスケジュール関係のヒアリングですそれでは事業者から説明をお願いします。はい。北海道電力の金岡です。資料の2を基に、
0:00:16	論点とスケジュール説明させていただきます。
0:00:19	論点表のところからになります。ページ数で言いますと37ページをご覧ください。
0:00:27	37ページのところこちらは通しナンバーで言いますと21番、燃料等輸送線に関わる項目の作業状況です。
0:00:37	今回は、説明スケジュールを変更してございますので、審査会合時期、1月末呉を検討方針、あとは2月末は検討結果2回に分けて説明すると。
0:00:49	ようなことで情報を更新してございます。
0:00:52	続きましてスケジュールですけれども45ページをご覧ください。
0:01:02	45ページ、耐津波の燃料等輸送線に関わる項目です。元、先ほどの論点表と同じように、1月末呉にですね検討方針を説明いたしまして、
0:01:16	新たにですね2月末の審査会合時期設定してあります。こちらは燃料という創生も含めましてそれ以外の船舶や車両についての検討結果を、このタイミングで説明させていただくよう見直してございます。
0:01:30	続きまして46ページをご覧ください。
0:01:37	火山灰層厚評価の項目になります。こちらがハザード側の火山の工程が今回見直しスライドしてございますので、それに連動いたしまして、審査会合時期を
0:01:52	2月から4月末に、今回プラントがスライドしてございます。
0:01:57	この結果クリティカルパスの周期と同じ時期になったというような見直しを行ってございます。
0:02:05	このページ一番下になりますけれども、BSバックフィットの12月18日の週に三角印を追加してございます。
0:02:15	補正時期に合わせてましてブラッシュアップしたまとめ資料一式を、
0:02:19	提出させていただきます。
0:02:22	変更点の説明は以上となります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:27	規制庁秋本ですそれでは確認に入ります。こちらから何か確認することありますでしょうか。
0:02:34	Webのミヤモトさんはいかがでしょう。
0:02:39	特にありません。はい。
0:02:41	規制庁秋本ですそれでは、こちら側からも特段ありませんので、以上でヒアリングを終わりにしたいと思います。はい。お疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。